

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300229		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホームさいか Aユニット		
所在地	群馬県高崎市吉井町矢田669		
自己評価作成日	平成22年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・定期的に行われる清掃活動や、区長様や地域の方々に開催している人情喫茶という会に参加させて頂いたり、運営推進会議を始め、ホームのイベント時には近隣住民様にも参加して貰う等、地域の方々の関係性に努めています。</p> <p>・職員と利用者様で中庭を畑に作り替え、季節毎の野菜などを育て、食卓にて提供しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との交流がホームにとって大切なものであることを十分に理解し、そのうえで交流促進に努めている。具体的な活動としては、地区道路清掃への参加、花を植える活動への参加、また町の文化祭への入居者の作品出品などがあげられる。加えて、「人情喫茶」という区長主催の交流会への参加は、近隣住民との会話を楽しむことができる有意義な活動となっている。</p> <p>重度化した場合の家族の不安を取り除くため、重度化や終末期に向けた支援については主治医の協力が得られることを条件として、看取りを行う旨を契約時に家族へ説明をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300229		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホームさいか Bユニット		
所在地	群馬県高崎市吉井町矢田669		
自己評価作成日	平成22年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議にて地域密着型サービスについて説明したり運営推進会に職員も参加し地元との交流の中で感じてもらう機会を作っている。	理念は、前文と「生活感・季節感のある環境」「社会・地域とのつながりのある開かれた環境」等5項目からなり、掲示されている。	職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、日々入居者と関わる中で理念の実践を意識することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年始のどんど焼きや地元の祭りなどに利用者の方と参加し交流を図っている。また毎月開催されている地域サロンに定期的に参加したり年二回の地域清掃にも協力している。	地域の道路清掃への参加、花いっぱい運動における地域交流、町の文化祭への作品出展、区長が主催する「人情喫茶」への参加など、ホーム及び入居者が地域とのつながりを持って生活できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを職員が取得し、支援の方法を地域の方に伝える方法を学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに非難訓練に参加してもらい意見をもらったり、慰問に呼んだり日常の様子を報告する中で意見交換している。	事業所の取り組み状況や入居者の生活状況等を知ってもらうため、全家族に会議の案内を送付している。また、消防訓練に併せ消防署職員が会議に参加するなど、多様且つ柔軟な会議員構成とし、事業所のあり方等について話し合い、それを運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故あった際の報告書の提出以外にもお便りや月例報告書を自主的に提出し、事業所の情報を伝えるようにしている。	支所に毎月出向き、入居者の生活状況、入院等の変化について近況報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	死角となる玄関の施錠を行っているが、外に出たい希望がある時は開錠して散歩に付き添うようにしている。またフロアの非常口など目の届くドアは部分開錠するなどして閉塞感のないように配慮している。また中庭での活動の充実に畑なども整備した。	以前(4~5年前)に、入居者が玄関から出て行ってしまい周囲の方たちに迷惑をかけてしまった、そうした事情から、また危険防止のために日中玄関に鍵をかけている。	鍵をかけることを常態化することのないよう今後も危険防止の方策を職員間で話し合われることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修を通して虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。また職員には実際にあった虐待事件を取り上げ自省の材料にしたりしている。また職員のストレスが利用者へ直接向かわないようにストレスケアに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて成年後見制度の利用を家族に進言したり、職員には外部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明し、疑問点や不安があれば尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、匿名での要望を吸い上げている。また処遇計画書を更新する際にも家族意見を書く欄を設けている。	すべての家族が最低でも月1回訪問に来ているため、その時に職員が意見や要望を聞くようにしている。「入居者の衣類管理の方法」や「職員の服装や言葉づかい」等の苦情について「苦情受付簿」に記載し、職員会議で話し合い、対応方針を文書化し共有できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回スタッフ会議を開催し意見や提案を聞いている。また現場主任を交えたリーダー会議も不定期で開催している。	毎月の職員会議には、すべての職員が参加するようにしており、食卓の配置換え等の話し合いを持っている。また、会議に十分な時間が費やせない場合は、申し送り、職員間の情報交換等を通じて各人の意見の表出、聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績により昇格や異動による昇給を行っている。また資格取得のための後押しなどにも配慮し、社内研修や教育制度なども整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議の中で意識向上や研修を行うほか、社内研修を開催したり外部研修の機会を設けたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームへ利用者様と遊びにいたり交流会を設けたりしている。また他のホームの運営推進会議に参加させてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご家族や担当のケアマネジャーから事前情報を頂くようにし、面接を通して信頼して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望の際はまず見学に来て頂き、実際にホームを見てもらっている。その際に現状での困っていることや不安なことを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、他のサービスが適当と判断した場合は他事業所を紹介したり連絡をしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能が活かされる方向で処遇計画を立案し実行している。また利用者様には個別に職員を担当させて頂き、生活史の把握に努めたり日常の発見や気づきをサービスに反映できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会の際にご本人の様子を出来るだけこまめに伝え、共に協力していけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人が来られた際は、またいつでも面会に来て頂けるように勤めている。またご本人と一緒に写真をとってもらったりして関係継続を支援している。	友人がホームを来所し昼食を共にしたり、同窓会の案内を持参されたり、買い物や散歩の際に友人と立ち話をしたりする等、馴染みの人や場所等との関係性維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席など利用者様同士の人間関係にも考慮するようにしている。また、利用者様のお手伝いを別の利用者様に依頼したりして関係構築の支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院に御見舞いにいたり、ご家族からの相談に応じている。退所後も遠慮なくホームへ遊びに来て頂けるようにお話ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を感じ取り実行することを基本姿勢にしている。把握や検討の仕方についてはカンファレンスで話し合ったりしている。	ちぎり絵や詩吟等の趣味について、家族や友人から本人に関する情報を収集し、それらを本人本位でアセスメントしている。衣替えで衣類等を取りに家に帰りたいと要望する入居者には、職員が送迎を行うなど対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も家族より情報収集を行い、処遇に取り入れるようにしている。また収集した情報を担当職員を通じて活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	処遇計画を通じ、それらの把握に努めている。また日々の記録にそれが感じ取れるように記録の付け方を指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が担当職員や日々の記録、主治医やご家族を元にスタッフ会議などで処遇検討し反映できるようにしている。	3ヶ月毎にモニタリング、アセスメントに基づくプランの見直しを定期的に行っている。作成した介護計画は説明文を添えて家族へ送付し、意見等を確認してサインしてもらっている。現在、介護計画書の様式を見直し検討中である。	モニタリングを毎月行うとともに、家族訪問時に計画を説明し、希望等を聞き取るなど、プランに対する家族との直接的なやり取りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の「気づき」を出来るだけ前向きな「情報」として活かされるように具体的な詳細な記載しパソコン上で閲覧しやすいように管理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠隔地に住まいの家族の為にご本人の自宅の鍵を御預かりしたり、孫の結婚式の付き添いをしたりとニーズに応じて出来る範囲で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の地域サロンなど、馴染みの場所へ出かけていける機会を確保するほか、地域の慰問ボランティアに来てもらい、地域とのつながりが少しでも本人の暮らしにいい影響があるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら入居前の医師の診察が受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は、家族等が対応している。家族が県外在住の場合には、職員が対応を行っている。また、往診に対応してくれるかかりつけ医がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回来てもらっている看護師に健康面で相談したり助言をもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の対応について主治医と相談したり、必要があれば訪問看護を導入したりしている。退院に際し必要があればホームと病院と家族とでカンファレンスを行うこともある。また入院時の様子の把握に、マメに入院先には足を運んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携し、必要な受診を含めた援助を提供できるように努めている。またご家族にも主治医からの情報を提供し状況の共有を図るように努めている。	主治医の協力が得られることを条件に、利用契約時に看取りを行う旨を説明している。末期癌の入居者については、事業所内での支援に限度があり、主治医・家族と相談し緩和ケアの可能な病院への入院を手続中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや連絡方法を周知している。救急車の呼び方の指導や普通救命救急の講習に職員に参加してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに避難訓練に参加してもらっている。年に一回消防署の方に消火器の使い方も指導してもらっている。スプリンクラーも設置済み。	年2回の消火・避難訓練を行っており、うち1回は消防署職員指導のもと夜間想定訓練を行っている。近隣の人たちには文書を持参し、協力依頼を行っている。訓練を運営推進会議と同日実施することで会議構成員にも訓練を体験して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の誇りやプライバシーを侵害しないように接遇研修を内部で実施したり、外部研修に職員を出したりしている。	職員は、法人が年2回開催する接遇研修を受講している。入居者の立場に立ち、気持ちに寄り添う、プライバシーを損なわないような支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の発言内容を生活記録に残すなど、ご本人の発言を重要視している。また認知症状での「問題行動」という捉え方をなくし、「ニーズの表出」と捉えられるように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間なども、ご本人の体調やリズムを考慮して対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力で、白髪染めを馴染みの美容院で行う方がいる。化粧などを好んでされる方は綺麗に仕上がるようお手伝いしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで栽培した野菜と一緒に調理したり、漬物をつけることもある。季節が感じられる特別メニュー(土用のうなぎなど)も行っている。	食材業者の献立に、家庭菜園で収穫した新鮮野菜を添えている。入居者は、可能な範囲で職員と共に下膳や食器洗いをやっている。食事は職員も入居者とともにテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析の方は水分や食事をコントロールしたり、糖尿病の方は油や糖분을控える配慮をしている。なかなか水分を取って頂けない方は甘い飲み物やコーヒー、ゼリーなどで補い、栄養が不足しがちな方はエンシュアなどの栄養補助剤も使っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しているほか、訪問歯科医より口腔リハビリや口腔ケアについて指導をもらっている。また機能改善のために毎食前に口腔リハビリを取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔からできるだけ、トイレでの排泄が行えるように誘導・声掛けしている。状況に応じてポータブルトイレなども活用している。	夜間にオムツやポータブルトイレを使用している方に対しても、昼間はトイレ誘導を行うことで排泄の自立支援を念頭においた実践を展開している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便状況を把握するよう努めており、飲水量や体調から下剤を調整している。また自然食品や体操など薬に頼らない自然な排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。入浴時間は夕方だが、その時間に希望やタイミングが合わない方に関しては個別に午前や午後時間を設けて入浴頂いている。	入浴日は週3回、午後の時間帯と決められているが、午前中入浴やシャワー等を希望する場合には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や体調の変化を把握し、適切な休息が確保できるように努めたり不眠の際は添い寝をするなどして安心して入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイリングして確認できるようにしており、受診記録の共有などで、職員一人一人が薬の目的や副作用・薬剤の変更など確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑をされてきた方が多いので、野菜作りを行ったり漬物を漬けたり編み物や草むしりなど、昔からの馴染みのある活動を取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は外に散歩にでかけるようにしている。またホームの買い物と一緒にいってもらったり地域行事などにも出かけられるように支援している。	花見や町の祇園祭見物など、その季節に応じた外出行事を計画・実施している。日常的には、入居者が希望する洋服の購入や事業所で使用する日用品や調味料等の買い物に、入居者とともに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で現金管理をされている方はなく、個人の購入品は職員が代行したり家族に頼んだりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が書いた手紙を出す支援をしたり、電話をかける手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に花や野菜を植えたり、花瓶に花を飾ったりしている。七夕や十五夜、クリスマスなどでは一緒に飾り付けを行い季節感を感じて頂けるようにしている。	皆が集まるスペースや廊下には、入居者が作成したちぎり絵等の作品が飾られている。中庭には家庭菜園があり、入居者は季節の野菜作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルから少し離れた場所にソファを設置し気の合う利用者様同士会話ができるように配慮している。また廊下に椅子を置き、ひなたぼっこなどができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご本人が使っていた品物やご家族の写真・仏壇など思い出の品を持ち込んで頂ける様支援している。	使い慣れた家具や書籍などを持ち込んでいる人、多数の洋服を持参し、楽しんでいる人、父親のアルバムを持参する人など、その人がその人らしくあることを念頭においた空間づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物など干せる方は自分で干してもらえようように高さの調整ができるようにしている。		